

# 医療安全管理研修会のご案内

## 「標準予防対策に基づく基本的な対応」

日時 3月12日(土)午後2時30分～4時30分

会場 兵庫県保険医協会会議室( JR・阪神元町駅東口を出て南へ徒歩7分)

講師 済生会兵庫県病院感染管理認定看護師 小川 麻由美 氏

参加費 2,000円(受講された方には受講証を発行します)

※当日、保団連発行『医療安全管理対策の基礎知識』冊子をお渡しいたします。

2007年4月の医療法「改定」によって、「すべての医療機関の管理者は、医療の安全を確保するための指針の策定、従業員に対する研修の実施をはじめとする、医療の安全を確保するための措置を講じなくてはならない」とされ、具体的な措置として①医療安全、②院内感染対策、③医薬品安全管理、④医療機器安全管理の体制の確保が義務付けられました。

その中で特に、医療法で「医療安全管理」「院内感染対策」に関しては、職員・従業員の研修を年2回程度実施することが求められています。無床診療所(医科・歯科)の場合は、職員・従事者研修については外部研修でも認められていることから、神戸支部でも毎年研修会を開催し、好評をいただいています。ふるってご参加ください。

FAX(078)393-1802 へご返信下さい

参加者氏名 ( ) 職種 ( )

参加者氏名 ( ) 職種 ( )

参加者氏名 ( ) 職種 ( )

受講証作成のため参加者氏名は楷書でご記入をお願い申し上げます。

( )区 医療機関名

ご担当者名 TEL ( )

□会場案内地図のFAXを希望する(☑をつけてください) FAX ( )

兵庫県保険医協会

236号 2011年2月25日

## 神戸支部ニュース

発行 兵庫県保険医協会神戸支部

連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1807 FAX/078-393-1802

明日から役立つ会話力アップ講座

## 話し方は人間的魅力にも通じる

神戸支部は1月8日、アナウンサーの田村正浩氏を講師に招き、支部研究会「すべての医療人における日常診療の会話力アップ講座」を開催、20人が参加した。参加者の感想文を紹介する。

耳鼻科を開業して12年経ちます。今回、企画「日常診療の会話力アップ講座」に参加させていただきました。

私は発声が少し不明瞭なことも多く、また話し下手なので、これらの点を改善する、何かいい手がかりが得られることを期待して参加いたしました。

講師の田村様は、アナウンサーでもあり、発声はすこぶる明瞭、常に微笑を浮かべながら話され、聴いていて、ほれぼれするような話し方でした。

まず、発声の指導をしていただきました。少し距離のある所にいる人にわかりやすく聴かせる発声方法を教えていただきました。これは会議やプレゼンテーションの際に役立つと感じました。

(2面に続く)



田村アナウンサーを講師に20人が参加(上)  
診療所のロールプレイも行った(下)

(1面から続く)

次に、診察室での医師と患者の診療場面のロールプレイを行い、その際の話し方、説明の仕方等について、参加者で意見交換いたしました。

開業してからは、他の医師の診療風景を見聞きすることはなく、自分でよいと思った問診・説明の仕方で行った診療を続けてきました。しかし、他の医師の診療時の話し方を聞き、それについての参加者各自の

さまざまな意見を聞かせていただき、大いに勉強になりました。

講師の先生の実に魅力的な話し方は、会話の相手に好感を与えると同時に、人間的魅力にも通じるということを実感いたしました。

この講座で学んだことを、これからの診療、日常の会話などに生かしていきたいと考えています。 【灘区 杉本 和彦】

## 阪神・淡路大震災から16年

# 県下各地でメモリアル企画



神戸市の借上公営住宅を見学。20年の契約期限が迫り、入居者は市から退去を迫られている。

6434人の命を奪った阪神・淡路大震災から16年。震災後の復興事業で壊れた街並みは美しく整備されたが、被災者の暮らしには震災が影を落とし続けている。兵庫県・神戸市が、被災者向けに民間から借り上げた復興住宅の入居者ら

に対し、入居期限20年を前に転居を迫っていることが大きな問題となっている。16年の節目となる1月17日を中心に、県下各地で被害者追悼や復興課題を考える企画が開催され、神戸支部役員も多数参加した。

< 詳細は兵庫保険医新聞1月25日付 >

## 研究会「支払基金の現状と問題点」に115人

# 興味深い事実も明らかに

神戸支部は1月22日に支払基金兵庫支部係長の南鉄雄氏を講師に研究会「支払基金における審査の現状と問題点」を開催。会員やスタッフなど、115人が参加した。参加者の感想文を紹介する。



講師は支払基金職員の南鉄雄氏

レセプト電算システムによる請求が一般的となった今、支払基金ではどのような審査が行われているのか、紙レセプトに比べて査定は増えているのだろうか、現状を確かめるべく研究会に参加してみた。トピカルなテーマであったためか、会場は満員の盛況であった。

講師の南氏はレセプト点検40年のベテランで、話題はレセ電の普及状況に始まり、コンピューターによるレセプト抽出例、病名と医薬品・診療行為との整合性のチェック、基金職員の役割分担など、診療の現場からは伺い知ることのできない内容であった。

現在の問題点としては、支部間でレセプトを交換してみたところ査定率の支部間差異が明らかに存在すること、審査基準が画

一化され医師の裁量が損なわれる危険性があることなどがあげられていた。

他にも、突合審査や縦覧審査がどのようなものであるか、審査対象医療機関のランク付け(A~D)、病名漏れに対しては保険者が返戻でなく減点を強く要求してくること、苦情相談窓口には被保険者からの申し立てもあることなど、興味深い事実も明らかになった。

また、レセ電により全件審査が可能になった反面、未コード化傷病名がいまだに予想以上の数にのぼっており、審査に支障をきたしているとのことであった。

明日からの保険診療の一助となり得る有益な情報も多く、あらためて「病名」付けの重要性を痛感した講演であった。

【高砂市 加藤 康之】

### < 投稿を募集しています >

支部ニュースへの投稿を募集しています。日常の診療にかかわることや、主張などお寄せください。



F A X 078 - 393 - 1802 田村まで  
e-mail tamura@doc-net.or.jp